

交通安全教育のさらなる高みをめざして

安全運転普及本部 事務局長 千葉 英雄

2012年の重点テーマ

Hondaが取り組む安全運転普及活動は、今年で43年目を迎えました。昨年からの第9次交通安全基本計画では道路交通安全対策として8つの具体的な対策を掲げておりますが、なかでも「交通安全思想の普及徹底」「安全運転の確保」「研究開発および調査研究の充実」においては、私たちが長年継続してきた「人づくり」「場づくり」「ソフトウェア開発」の三本柱と通じるものであり、まさに関係行政と民間との連携による重層的な取り組みとして展開しているところです。

この三本柱に基づき、今年も「地域に根ざした普及活動の定着化」と「社会に求められるノウハウの創出と発信」を重点テーマとして掲げ、活動を展開して参りました。

1 地域に根ざした普及活動の定着化

活動開始から4年で44都道府県に定着

熊本を皮切りに、栃木、埼玉、浜松、鈴鹿の各製作所に設置した「地区普及ブロック」による地域に根ざした普及活動は、活動開始から5年目を迎え、地域が主体となった交通安全普及活動を行う指導者延べ1万2000人を養成するとともに、その指導者によってHondaのノウハウを活用しながら、今年だけで全国341市町村、約63万人に安全をお伝えしました。

指導者の皆様に幼児・小学生向けの「あやとりシリーズ」、高齢者向けの「シルバー楽集大学」「交通安全ビデオ講座※」など、Hondaが開発した交通安全教育プログラムや教材を活用していただくことで、多くの方々に交通安全を学ぶ機会を提供できました。活動は着実に全国へ広がりをみせ、2012年度末までに動員数約81万人、東日本大震災の影響で活動を一時中断した東北3県を除く、44都道府県での活動の定着が見込まれています。一人でも多くの大切な命を守りたいという共通する信念を持ち、多くの方々のご理解とご賛同を得て展開できましたこと、深く御礼を申し上げますとともに、今後も新たな教育ツールの提供や各地域に対応したノウハウ提供など、地域指導者との連携を維持しながら、継続して参ります。

Honda関連企業の従業員で構成される「Hondaパートナーシップ・インストラクター制度」では、37社94名のインストラクターが積極的な普及活動を展開し、今年も20社28名の第三期インストラクターが加わりました。モビリティ社会の一員として、従業員への安全教育や、各社周辺地域における参加体験型の親子交通安全教室を通じて交通安全の普及に取り組んでいます。

また、全国41校の教習所と連携した交通安全普及活動では、二輪車安全運転実技講習会や、自転車シミュレーターを活用した中学生・高校生に向けた自転車教室、各種交通安全イベントを開催し、地域から期待される活動として定着して参りました。

Honda内では全国の製作所における「工場インストラクター制度」を再構築し、製作所内外の交通安全に向けた取り組みが活発化しています。鈴鹿・埼玉ではこの1年で新規インストラクターの養成が進み、従業員に対する指導を行いながら、社内の安全意識向上を図っています。

こうした背景から、今年9月に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を4年ぶりに開催いたしました。同大会を通じて、習得したことを各地域に戻って取り組むことを期待します。また、大会に先立ち、世界9ヶ国の安全運転普及活動推進責任者を集めた「1st Safe Driving Global Meeting」を開催。各拠点での安全運転普及活動の活性化を目的に理念の共有および今後の共通施策の方向性について確認し合いました。

海外での活動においては、各国の交通事情の急速な変化に合わせ、二輪市場が急激に拡大しているアジアを重点地域とし、各国の現地法人と連携しながら展開を拡大して参ります。

お客様と直に接する販売拠点では、今年もお客様に安全を手渡しする様々な活動を展開して参りました。「血の通う言葉と心で、お客様を事故から守ろう」という店頭活動の原点に立ち返り、今後もお客様の期待に応えられる活動に取り組んで参ります。

全国7ヶ所の交通教育センターでは、企業や一般の方々を対象とした参加体験型の実践教育に取り組み、安全運転スキルの向上とともに、企業の指導者育成や従業員教育の場として好評を得ています。また、交通社会の変化を先取りした各種の調査研究に安全運転普及本部と協働で取り組み、新たな教育ノウハウの開発に取り組んでいます。



2 「社会に求められるノウハウの創出と発信」

シミュレーション技術を応用した新たな活用

「より多くの人にクルマを操る楽しさを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という理念を実践するために、身体が不自由な方に車両運転時の安全性確保に向けた教育機会を提供し、交通事故削減に寄与することをめざしています。

今年発売した「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」はシミュレーション技術を活用し、高次脳機能障害により、リハビリ加療中で運転復帰をめざす方々の運転に対する評価や訓練をサポートできるもので、既に全国30ヶ所のリハビリテーション施設などで活用されています。

さらに、最終的な運転能力の評価をサポートするリハビリテーション向け「実車安全運転サポートプログラム」を交通教育センターに導入し、既に熊本県のリハビリ施設の対象者がプログラムを受講するなどソフトとの併用で、多くの方々の運転復帰をサポートしています。

また、今年新たに身体に障がいのある方や移送サービス者向けの安全運転に関する研究をスタートしました。Hondaの関連企業であり、多くの障がい者が働くホンダ太陽(株)、そして(株)レインボーモーターズスクール、(株)モビリティランドによる共同研究を開始し、福祉関連施設、団体との連携により、教育手法の研究を進めています。

交通社会のなかで自ら考え、自らを守る

近年、自転車事故に遭いやすい高校生年代への交通安全教育の拡充が求められています。Hondaは交通安全教育を通じ、社会生活におけるルールやマナーの重要性、人への思いやりなど道徳心を養いながら豊かな人間性を育み、若く尊い命を守りたいと考えています。そのためには、交通安全について主体的に考え、自ら行動できる学習機会の提供が必要です。そこで、今年度より熊本県の関係行政機関のご理解とご協力のもと、新たな高校生交通安全教育を開始しました。単に自転車やバイクの乗り方を学ぶのではなく、危険を安全に体験しながら、何故危険なのか、危険を回避するために何が必要なのか、自ら気づいて安全行動に結びつけることで事故を起こさない、巻き込まれない安全意識の向上と人に迷惑をかける道徳心を育み、良識ある交通社会人の育成をめざしています。

こうした考えを熊本県内の16の高校にご賛同いただき、延べ1万3000人の高校生に交通安全教育を行いました。将来的には、受講した高校生がインストラクターとなって、学校と生徒が主体と

なった校内自主活動へ発展させることが目標です。

また、熊本市内の服飾デザインコースをもつ高校では、生徒自らが交通安全を考え、安全意識を育む校内自主活動として、県内交通事故実態調査を行い高齢者の身体特性や反射素材の研究を行いながらHondaと協働し高齢歩行者向けのファッションショーを開催するなど多方面から注目と期待が寄せられています。

2013年に向けて

地域に根ざした普及活動の実践

地域に根ざした普及活動は、活動開始から丸4年を迎えた今年、目標を1年前倒して一定の評価基準をクリアし、全国に定着したと考えています。来年度は活動を一時中断した東北3県への普及活動に取り組むとともに、地域指導者の皆様の活動を引き続きサポートして参ります。

一方、今年度から熊本県で開始した高校生交通安全教育活動は、バイクの「3ない運動」が大切な命を守るという観点から「自転車・バイク・歩行者のマナーアップ」という啓発活動へ方向転換する動きからも、その必要性が高まっています。熊本県での経験をもとに、交通安全教育を通じて道徳心を持つ、良識ある交通社会人の育成をめざす活動として全国への拡大をめざし、今後も積極的に展開して参ります。

福祉に対応した安全運転ノウハウ・機器の開発

今年発売したリハビリテーション向け運転能力評価サポートソフトは、今後、全国約60ヶ所の病院・リハビリ施設において活用される予定です。さらに来年は、身体に障がいのある方や移送サービス者向けの安全運転教育プログラムの開発・導入を進め、車両運転時や移動時における安全性確保に向けた教育機会を提供し、交通社会への参加を支援していきたいと考えています。

また、益々、進展する交通社会の高齢化に対応し、高齢運転者向けの交通安全教育プログラムや運転適性判断ソフトの開発等に取り組み、安心・安全なカーライフを支援して参りたいと考えています。これら福祉領域への取り組みによって、従来から開発販売している福祉車両のハードと安全教育というソフトの両輪でHondaの福祉領域を展開して参ります。

このように高校生に対する教育の充実により、交通安全の生涯教育を補完し、さらに健常者に加え、障がい者・高齢運転者をも含めた普及活動により、Safety for Everyone、すべての人の安全をめざして取り組んで参ります。

今後ともHondaの安全運転普及活動へのご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

地域の指導者の活動を継続的にサポート



Hondaは「手渡しの安全」の担い手である交通安全を伝える地域の指導者を養成するため、Hondaの考え方に賛同いただいた行政・警察・関連団体の関係者、交通指導員※、教習指導員、Honda関連企業の従業員に対し、Hondaの交通安全教育プログラムや教材を提供し、その活用方法をお伝えするなど、指導者の主体的な交通安全教育をサポートをしています。

※交通指導員=自治体や関係団体等に属し、地域において子どもや中学生・高校生、高齢者に対して交通安全教育を行う職員

● 地域に根ざした普及活動の定着化のために

Hondaでは、全国5カ所(下記参照)の各製作所内に地区普及ブロックを設置し、Hondaの交通安全教育プログラムや教材を活用した指導を実践するとともに、研修などを通じて、その教育ノウハウを地域の指導者にお伝えしています。これまでに約1万2000人の指導者を養成しました。

さらに、地域の指導者による主体的な交通安全教育をサポートするため、交通指導員の方々を対象にした情報交換会や合同研修会を全国各地で開催しています。相互の指導方法の確認(P11右上写真参照)や意見交換を通じて、指導力の向上に役立てていただき、継続的な活動につなげていただきたいと思います。

■地区普及ブロック 所在地

栃木普及ブロック (栃木県真岡市) TEL: 0285-84-7114
 鈴鹿普及ブロック (三重県鈴鹿市) TEL: 059-370-1553
 埼玉普及ブロック (埼玉県狭山市) TEL: 04-2955-5323
 熊本普及ブロック (熊本県大津町) TEL: 096-293-3206
 浜松普及ブロック (静岡県浜松市) TEL: 053-439-2316



●九州・山口地区交通安全指導者情報交換会
福岡県、熊本県、宮崎県、長崎県、大分県、佐賀県、山口県から64名が参加



●中国・四国地区交通安全指導員合同研修会
岡山県、広島県、島根県、香川県、徳島県、愛媛県、高知県、長野県から38名が参加

と考えています。今年1月に奈良県、栃木県、3月に埼玉県、8月に熊本県、埼玉県、香川県、福島県、11月に福井県で情報交換会や合同研修会が行われ、合計250名の交通指導員が参加しました。参加した交通指導員の方々からは、「他地域の教材や指導例を見る機会がないので、たいへん参考になる」「今回勉強した内容を自分たちの活動に取り入れたい」といった声をいただいています。今後も地域指導者との連携を維持し、このような取組みを継続してサポートしていきたいと考えています。

● Honda関連企業内にインストラクターを養成

Hondaは2008年より関連企業において、交通安全指導を担う専任のインストラクターを養成しています。交通安全教育センターで指定された養成研修を受講した関連企業の従業員は、Hondaパートナーシップインストラクター(HPI)として認定されます。37社94名が活動しており、今年新たに20社28名がHPIに認定されました。認定されたHPIは従業員への安全運転教育をはじめ、親子が楽しく交通安全を学べる参加体験型の「親子交通安全教室」(P14参照)などを実施し、各社周辺地域における普及活動に取り組んでいます。



高齢者にとってほしいことを高齢者交通安全5則「まみむめも」として啓発(岡山県児島交通安全協会)



栃木、埼玉、浜松、鈴鹿、熊本で行われたHPI3期生の養成研修

■Hondaパートナーシップインストラクター養成企業(順不同)

(株)ケーヒン	(株)エフテック	(株)アツミテック	金田工業(株)	(株)モビリティランド	東洋電装(株)
(株)山田製作所	トビーファスナー工業(株)	(株)エフ・シー・シー	不二工業(株)	(株)今仙電機製作所	(株)ホンダロック
森六テクノロジー(株)	日信工業(株)	エンケイ(株)	(株)アイキテック	九州テイエス(株)	希望の里ホンダ
(株)ホンダロジスティクス	日本精機(株)	(株)桜井製作所	鈴鹿インター(株)	九州武蔵精密(株)	三桜工業(株)
(株)飯野製作所	武蔵精密工業(株)	(株)ユタカ技研	クミ化成(株)	九州柳河精機(株)	(株)ROKI
(株)ショーワ	京浜金属工業(株)	柳河テクノフオージ(株)	(株)ベストテック	合志技研工業(株)	
			テイ・エス テック(株)	(株)小林製作所	

● 教習指導員のレベルアップ教育

自動車教習所は運転免許取得のための教育の場としてだけでなく、地域での交通安全教育を実践する場としても期待されています。同じ志を持つ自動車教習所(P18参照)に対し、Hondaは教育プログラム・教材や指導者のレベルアップ教育の提供などを通じて、各地域の自動車教習所が主体的に取り組む交通安全活動をサポートしています。

今年、北海道では連携教習所である野付牛自動車学校、遠軽自動車学校、北広島自動車学校、釧路自動車学校、白石中央自動車学園、苫小牧ライビングスクール、苫小牧中野自動車学校、北海道クミアイ自動車学校、芽室自動車学校の教習指導員に対し、Hondaによる二輪車安全運転指導者養成研修会を実施しました。研修を受講した教習指導員は、卒業生対象イベントなどで一般のライダーへの安全運転指導を実践しています。



連携教習所の教習指導員を対象にした二輪車安全運転指導者養成研修会

企業・団体に交通安全教育を根づかせるノウハウを提供

運転管理者・指導者の養成



企業、団体における交通安全教育の普及には、日常的に具体的な指導のできる運転管理者や指導者が必要です。全国7か所にあるHondaの交通教育センター(P22参照)では、豊富な経験や知識・技能を持つインストラクターが企業・団体の運転管理者や指導者への安全運転教育にあたっています。

● 企業・団体に安全運転教育ができる指導者の育成をサポート

Hondaの交通教育センターでは、バイク・クルマを業務等で使用する企業・団体の実情に合った交通安全教育のノウハウを提供し、具体的に安全運転教育ができる指導者を養成する研修を実施しています。

毎日の通勤やバイク・クルマでの業務は、企業・団体においても、ライダー・ドライバーにおいても、常に事故に遭遇する可能性は否定できません。企業のリスクマネジメントとしても重要な取り組みです。

研修では、事故防止の観点や問題を指摘するだけでなく、自分自身で問題を発見し、解決のために自ら行動する参加体験型の実践教育を行っています。

また、企業の指導者養成の一環として、Honda社内での事業所における工場インストラクターの養成も担っています。養成された工場インストラクターは、従業員やその家族に



企業の安全運転管理者などを対象にした「安全運転指導セミナー」



鈴鹿製作所の工場インストラクターによる従業員指導の様子

安全を伝えるほか、周辺住民の方々への啓発活動に取り組んでいます。

● 社内の安全運転普及活動をレベルアップする機会の提供

Hondaのインストラクターの指導力ならびに運転技術の向上を図る場と機会の提供を通して、日本および全世界に通用するインストラクターの育成を目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。13回目となる今年は、国内の交通教育センターや事業所、海外9か国からインストラクター71名が選手として参加。二輪部門と四輪部門に分かれ、それぞれ3種目の競技が行われました。さらに、こうした競技だけでなく、選手は指導者としての幅広い知識や指導力を確認する「指導力審査」(海外選手は「筆記レポート」)も行いました。



9月に鈴鹿サーキット交通教育センターで開催されたセーフティジャパンインストラクター競技大会



幼児の段階から成長に合わせた交通安全教育を普及

幼児・小学生
中学生・高校生



Hondaは、幼児から高校生まで、様々な年代の方々に参加・体験して、交通安全について考えながら学べる場と機会を提供しています。

幼児・小学生

子どもには、幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が必要であると考え、幼児・小学生には交通行動の基本である「止まる」「観る(観察する)」を身につけてもらうための教育を普及しています。

● 地域の指導者による Hondaの交通安全プログラムの活用

子ども向け交通安全教育プログラム「あやとりい」は、子どもの成長に応じ3つのプログラムがあります(P27参照)。この「あやとりい」による教育の場を普及させるため、Hondaでは地域の指導者に教材と指導ノウハウを提供。既に、全国各地の交通指導員を中心に活用いただいています。例えば、山口県宇部市の交通指導員の方々は幼稚園での交通安全教室の導入に「あやとりい ひよこ編」の音当てクイズを取り入れ、「どの幼稚園でも子どもの集中力が高まる」と好評いただいています。また、岡山県津山市の交通指導員の方々は小学生を対象に鈴鹿普及ブロックのインストラクターと「あやとりい 自転車教室」を開催しました。こうした地域の指導者を通じて、今年は全国各地で約36万人(10月末現在)の子どもたちが「あやとりい」による交通安全教育に参加しました。

また、「あやとりい」だけでなく、「Honda交通安全かるた」(P27参照)の活用も進んでいます。静岡県交通安全協会藤枝地区支部の交通安全指導員は、遊びを通じて交通安全に親しむことができることから「交通安全かるた」を小学生への指導に取り入れています。



山口県宇部市の交通指導員による明光幼稚園での「あやとりい ひよこ編」



岡山県津山市の交通指導員と鈴鹿普及ブロックのインストラクターによる津山市立勝加茂小学校での「あやとりい 自転車教室」



静岡県交通安全協会藤枝地区支部の交通安全指導員による「Honda交通安全かるた」を使った指導

幼児・小学生
中学生・高校生

● 子どもと親が楽しく交通安全を学ぶ
● 親子交通安全教室

Hondaパートナーシップインストラクター(HPI・P11参照)は、自治体や関係諸団体と協力して、親子が楽しく交通安全を学べる参加体験型の「親子交通安全教室」を開催しています。その目的は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を理解してもらうためです。トラックの死角に入った自転車や左折時に巻き込まれる状況を確認したり、飛び出しなど子どもに多い事故事例を模擬再現したりするなど、親子に気づきを促すプログラムを実施しています。この他、地元の交通指導員等の協力により「あやとりひよこ編」を活用した教育を行っています。2008年に九州地区の「熊輪会※」から始まり、東北・関東・信越地区の「Honda関連企業災害防止協議会※」、鈴鹿地区の「七代会※」が関連企業近隣の親子を対象とした交通安全教室を開催しています。

※「Honda関連企業災害防止協議会」「さつき会」「七代会」「熊輪会」ともに、Honda 関連企業からなる組織。



(株)飯野製作所が福島県南会津町で開催した親子交通安全教室



トピーファスナー工業(株)が長野県松本市で開催した親子交通安全教室

中学生・高校生

自転車・二輪車などの事故に遭いやすい中学生・高校生年代には、交通ルールを守ることや思いやる心を持つことの大切さに気づいてもらうことで、自ら行動を変えてもらうための教育を展開しています。

● 中学生に安全教育の機会を提供

中学生になると通学での自転車利用も多くなります。中学生の登下校中の自転車事故防止のため、鈴鹿サーキット交通教育センターでは、亀山市立中部中学校(三重県亀山市)の1年生174名を対象に交通安全教室を実施。座学と実技により、自転車事故をどうしたら防止できるかを生徒たちに考えてもらいました。

三重県鈴鹿市の交通安全教育指導員はHondaの自転車教育プログラムをもとに鈴鹿市立鈴峰中学校の1年生116名を対象に交通安全教室を開催しました。校庭に設けたコースで、指導員が見通しの悪い交差点での安全な通行方法の模範を見せた後に、生徒全員が自転車に乗車して同じコースを走行。そして、一時停止や安全確認ができていないかを他の生徒がチェックし、生徒同士で良かった点や不十分だった点を話し合いました。他者の行動を観察することで気づきを促し、行動変容につなげることを目的としています。



鈴鹿サーキット交通教育センターでの亀山市立中部中学校の1年生を対象にした交通安全教室



鈴鹿市立鈴峰中学校での交通安全教室

● 熊本県での新たな高校生交通安全教育活動

Hondaは高校生に対して、交通安全教育を通じ、社会生活におけるルールやマナー、人への思いやりなど道徳心を養いながら豊かな人間性をはぐくみ、若く尊い命を守りたいと考えています。そのためには、交通安全について主体的に考え、自ら行動できるようになるための学習機会の提供が必要です。そこで、熊本県、熊本県警察本部、熊本県教育委員会の協力のもと、熊本県内で新たな高校生交通安全教育活動を今年4月から開始しました。その内容は自転車や二輪車(原付)を利用する高校生年代の交通事故実態に即し、説得ではなく、納得性のある教育として、参加体験型の実践教育を柱に、道徳的な教育を加えたものです。例えば自転車の片手運転や傘差し運転を体験することで、バランスがとりにくいことや歩行者に対して危険であることを実感してもらっています。また、交差点での安全確認は他の車両や歩行者の安全を確保するという「思いやり」の意味があることを伝えています。すでに熊本県内16校の高校生約1万3000人に教育を行いました。

高校の先生方からは「単に運転技術を向上させるのではなく、交通安全を通じて道徳心ある交通社会人を育てようとしている講習内容に感心した」という声をいただいています。将来的には、受講した高校生がインストラクターとなって、学校と生徒が主体となった校内自主活動へ発展させることが目標です。

● 高齢者への反射材の普及に向けた高校との協働

高校生が主体となって生徒自らや周囲にいる人々の安全意識を高めてもらうための活動の1つとして、Hondaは熊本市立必由館高等学校(熊本県熊本市)と協働で反射材を活用した高齢者が着用しやすい衣服のデザインと製作を行いました。生徒が学んでいる知識や技術がいかに高齢者の交通安全に結びつくかを考えてもらうことがねらいです。そして、さらに、その高校生を通じて周囲の高齢者に反射材の利用促進を図ることを目標としています。「生徒が学んでいるファッションの知識や技術を高齢者の事故防止に活かしたい」と、生徒自らが交通安全を考え、安全意識を育む校内自主活動として県内の交通事故実態調査や、高齢者の身体特性、反射素材の研究を行い、夜間、ドライバーに目立つデザインを考案。8種類の衣服を製作し、9月に開催された熊本県民交通安全大会や同校の文化祭で発表しました。指導を担当した先生からは「交通安全の視点を学ぶことで、生徒は自分の表現が社会でどのように役立つか実感できたと思います」と評価いただいています。



熊本県立翔陽高等学校での二輪車(原付)教育



熊本県立湧心館高等学校での自転車教育



熊本県立多良木高等学校での自転車教育



熊本市立必由館高等学校の文化祭での服飾デザインコースの生徒たちによる反射材を活用した衣服の発表

安全への気づきと理解を促す 参加体験型の実践教育



ドライバーやライダーなどの運転者、高齢者に向けて、より安全について理解を深めていただくため、参加体験型の実践教育を主体とした交通安全に役立つ知識と技術を届けています。また、販売会社では、お客様や地域の方々との関わりを大切にしながら、手渡しで安全をお伝えする活動を展開しています。

運転者

ドライバーやライダーなどの運転者には、参加体験型の実践教育により、安全についての理解を深めていただくための場を、交通教育センターや二輪・四輪・汎用販売会社が提供しています。

- 高度な安全運転教育を提供する
- 「交通教育センター」

交通教育センターでは、企業・団体、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育を行っています。今年は約8万6000人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

個人のお客様向けには、Hondaモーターサイクリスト・スクール（二輪）やHondaドライビング・スクール（四輪）を開催。お客様のスキルやニーズに合わせたトレーニングを行っています。

企業向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムをオーダーメイドで提供。職場の安全指導者や運転経験の少ない新入社員への研修など幅広くご活用いただいています。鈴鹿サーキット交通教育センターでは、(株)NTTファシリティーズをはじめ、災害時に現場に急行する緊急自動車の運転者を対象とした緊急走行訓練を実施しています。

研修を利用した企業からは「事故防止のための実践的なトレーニングができる」「社員の安全意識の向上に役立っている」と好評です。さらに企業や団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しています。交通教育センターレインボー埼玉・和光（埼玉県）では「2012トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」を開催し、約260名の方々に参加していただきました。



鈴鹿サーキット交通教育センターでの(株)NTTファシリティーズ・緊急車両運転者研修



アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでのHondaモーターサイクリスト・スクール

- 手渡しで安全を伝える「販売会社」

二輪・四輪・汎用販売会社では、お客様との触れ合いを大切にしながら、手渡しの安全活動に取り組んでいます。安全運転に関するHondaの社内資格^{※1}を取得したスタッフが中心となって、店頭やイベントなどで安全アドバイスを行っています。

毎年、春と秋の「全国交通安全運動」（主催：内閣府ほか）に合わせて、オールHonda^{※2}で、「セーフティキャンペーン」を開催しており、販売店スタッフ全員が「交通安全啓発リボン」をつけて自ら交通安全を実践するとともに、地域での街頭立哨活動など地域の交通安全に積極的に関わっています。秋のセーフティキャンペーンでは、兵庫県のHonda Cars 兵庫が児童登校交通安全活動を実施しました。Honda Cars 岡山では、お客様を対象にした安全ミニ講習会を実施し、車両の死角やタイヤパンク修理キットの使用方法など日常の運転に関わる6つの項目について安全アドバイスを行いました。

また、Honda Dream九州では大分県天ヶ瀬温泉への1泊バイクツーリングを開催。バイクの安全アドバイスのほか、Honda 交通安全かるたを使ったイベントなどを実施し、盛況でした。



Honda Cars 岡山・倉敷笹沖店による安全ミニ講習会



Honda Cars 兵庫による児童登校交通安全活動

※1 Honda の社内資格には、お客様に店頭などでアドバイスができる「セーフティコーディネーター」、安全講習会の企画立案、開催の実施指導ができる「チーフセーフティコーディネーター」、お客様の安全で楽しいモーターサイクルライフをサポートする「ライディングアドバイザー」、電動カート「モンバル」の安全な乗り方や正しい取り扱いなどについてアドバイスできる「モンバル安全運転指導員」などがある。

※2 Honda の全事業所、交通教育センター、四輪販売会社、二輪販売会社（Honda DREAM）、汎用販売会社、ホンダ輸送グループ。

高齢者

高齢者には自身の身体機能の低下を自覚してもらうとともに、意識と行動のずれを少なくするための気づきを促す教育プログラムを展開しています。

- 高齢者への交通安全教育

高齢ドライバーおよび歩行中の高齢者が関わる交通事故の数は年々増加しています。そこで地域の交通指導員が、高齢者の方々に対象に運転者、自転車利用者、歩行者それぞれの立場での交通安全教育を実施しています。岡山県児島交通安全協会のシルバーサポーターは交通安全教育プログラム「交通安全ビデオ講座」を使って、高齢者への講習を行っています。これは、ビデオに撮影された交通状況（歩行者や自転車利用者、クルマの動き）を観察して、その感想や意見を高齢者同士で交換し、日頃の自分の行動を振り返るというものです。自らの良いところや問題点を見つけ出し（気づき）、問題点に対しては自らの力で正しい答えを見つけ出す（解決）ことを促しています。

また、Hondaを定年退職したOBの方々も交通安全教育に取り組んでいます。OBの一人、安岡廣幸さんは交通安全普及ボランティア指導員として熊本市周辺を中心に活動。「シルバー集大学」（P27参照）などHondaの教育プログラムをもとに地域の交通事情に合わせ、高齢の運転者、自転車利用者、歩行者を対象にした座学講習を行っています。

このほか、交通教育センターでも高齢ドライバー向けの少人数制教育プログラム「Honda 健康ドライブスクール[※]」を実施しています。



岡山県児島交通安全協会のシルバーサポーターによる「交通安全ビデオ講座」



交通安全普及ボランティア指導員として熊本市内で活動しているHonda OBによる座学講習

※東北工業大学の太田博雄教授らが公益財団法人国際交通安全学会などで研究成果を報告している「自己観察法」の手法を取り入れている。自分の運転を録画して観察し、「我が身振り返り、我が振り返す」手法。

自動車教習所と連携し、地域での交通安全教育を実践



地域に根ざした活動を拡げ、定着させるためには、Hondaの活動拠点だけではカバーできる範囲は限られてきます。そこで、Hondaは地域において交通安全活動に積極的に取り組んでいる自動車教習所と連携し、交通安全の輪を全国に拡げています。

● 自動車教習所の主体的な活動をサポート

- 今年は北海道ホンダ販売(株)との共催により、「Hondaおもしろツーリング&二輪車安全運転実技講習会」を北海道夕張市で開催、Hondaによる二輪車安全運転指導者養成研修を受けた北海道の連携教習所の教習指導員(5校8名)が実技指導を行いました。参加者は低速バランス・ブレーキングなど基本的な実技指導に加え、目の錯覚による事故の危険性について、同じ距離から見たバイクとクルマの距離感の違いを学びました。指導を担当した教習指導員は「私たちのアドバイスによって、受講者の方々に意識して自己流の運転を改善していただけたので良かった」と話しています。
- また、富山県では富山自動車学校と富山県ホンダ会*が連携し、セーフティナビや自転車シミュレーターなどの体験を通じて、地域の方々に交通安全への理解を深めてもらう「セーフティ・フェスティバル in 富山」を開催しました。

*富山県内にあるHondaの四輪販売会社で構成する組織

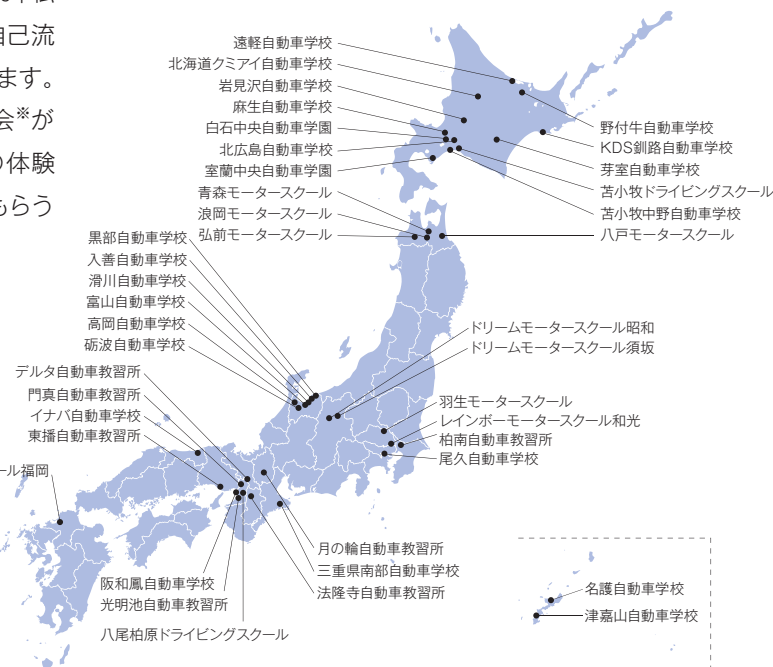


富山自動車学校で行われた「セーフティ・フェスティバル in 富山」



連携教習所の教習指導員による「二輪車安全運転実技講習会」での実技指導

■ 連携自動車教習所(16都道府県41校)



関係諸団体と連携し、交通事故の低減をめざす

Hondaでは、交通安全活動をされている関係諸団体や業界の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。

● 業界活動などへ積極的に協力

- 今年度、一般社団法人日本自動車工業会(以下、自工会)では、茨城県内における交通事故死者数低減のため、関係団体等と連携をとりながら、交通安全教育やキャンペーンを展開しています。その一環として、秋から年末にかけて増加する歩行中の高齢者の死亡事故を減らすため、ドライバーに夕方早めのヘッドライト点灯を呼びかける「トワイライト・オン キャンペーン」を実施しました。秋の全国交通安全運動の初日には、茨城県交通安全協会が主催する「茨城路セイフティロードの日」街頭キャンペーンに自工会も協力。Hondaも自工会の一員として、水戸市内の交差点に「トワイライト・



「茨城路セイフティロードの日」街頭キャンペーンに自工会の一員としてHondaも協力



茨城県茨城町が開催する高齢者向け講習「長生大学」では「あやとりい 長寿編」を活用

オン」を呼びかけるのぼり旗を掲示し、ドライバーに夕方早めのヘッドライト点灯を呼びかけました。

この他、7月には栃木普及ブロックが茨城県茨城町の高齢者を対象に「あやとりい 長寿編」(P27参照)を活用した歩行者教育を行うなど、様々な形で協力しました。

● 教習指導員のレベルアップと交流の場を提供

- 全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場を提供することを目的として、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」は今年12回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国73校140名の教習指導員の皆様が2日間にわたり競技に取り組みました。



第12回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技

● 埼玉県警察本部との共同研究を実施

- 警察との連携では2011年末に、埼玉県警察本部とHonda、(株)レインボモーターズスクールとの間で「交通事故削減のための協力に関する覚書」を交わし、今年、共同研究に取り組みました。夜間の道路横断歩行者や路上寝込み者が顕著であることから、こうした死亡事故の原因を自動車側と歩行者側の両面から究明することを目的としています。



高齢歩行者横断事故削減に向けた埼玉県警との共同実験(協力:石田敏郎・早稲田大学人間科学学術院人間情報科学科教授)

● 二輪車の交通事故防止のために

- 二輪車では、財団法人全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が主催する「二輪車安全運転全国大会」での審判業務のほか、一般社団法人全国二輪車安全普及協会が展開する参加体験型の安全運転講習会「グッドライダーミーティング」の指導に協力しました。
- また、1969年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」でも審判業務などに協力しています。



第45回二輪車安全運転全国大会の審判業務などに協力



第43回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などに協力

先進性・独自性のある教育プログラムを開発



Hondaは「より多くの人にクルマを操る楽しさを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という理念を実践するために、身体が不自由な方に車両運転時の安全性確保に向けた教育機会を提供し、交通事故削減をめざしたいと考えています。これまでに蓄積したノウハウをもとに、福祉領域における安全運転教育の新たな価値を提供しています。

● リハビリテーション中の方の運転復帰をサポート

- 厚生労働省の資料によれば、全国には約170万人のリハビリ加療中の方々が社会復帰をめざしています。そして、こうした方々の中には、運転復帰を希望される方もたくさんいます。しかし、クルマの運転を再開できるかどうかの明確な基準は存在せず、担当の医師や作業療法士の方々がその判断に苦慮しているという現状があります。そこで、Hondaは四輪ドライビングシミュレーターの技術を活用して、リハビリ中の方の運転に対する評価や訓練をサポートするための「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」を開発し、発売しました。既に30カ所のリハビリ施設で活用されています。その1つ、高知県の近森リハビリテーション病院では今年5月にこのソフトを導入。担当の医師からは「患者様のリハビリへのモチベーションアップにつながっている」と好評いただいています。



熊本セントラル病院の患者の方がリハビリテーション向け運転能力評価サポートソフトを利用

● 実車走行による体験で運転能力を把握

- 最終的な運転能力の評価をサポートする「リハビリテーション向け実車安全運転サポートプログラム」を交通教育センターに導入し、運転能力評価サポートソフトとの併用により、運転復帰をサポートすることをめざしています。
- 熊本セントラル病院でリハビリ中の方が交通教育センターレインボー熊本でこのプログラムを受講。インストラクターと一緒に実車に乗り、交通教育センター内のコースで安全運転に必要な認知・判断・操作の基本行動を体験しました。
- 病気のため3年以上、クルマの運転をしていなかったという60歳の方は「久しぶりにクルマに乗って『運転は楽しい』とあらためて感じました。こうした施設で安全に練習ができて良かったと思います。事前にサポートソフトによるトレーニングをやっていたことも安心感につながりました」とプログラムを体験した感想を話してくれました。
- 熊本セントラル病院医療技術部リハビリテーション科担当次長企画室室長の大島正道さんは「プログラムを受講した患者様がたいへん喜ばれていたのが印象的でした。今回は実際の運転場面に近い状況での練習だったので、患者様が運転する時の課題を把握することができました。私たちが思っていた以上の運転能力を見せてくれた方もいましたから、これまでの患者様に対する認識を見直す材料として役立ちます」と、このプログラムを評価しています。



交通教育センターレインボー熊本での熊本セントラル病院の患者の方を対象にした「リハビリテーション向け実車安全運転サポートプログラム」

● 身体が不自由な方の安全な移動のために

- Hondaは、身体が不自由な方が便利で快適に移動ができる福祉車両の開発・普及に力を入れています。そして、福祉車両の普及に合わせて、車両運転時の安全性確保に向けた教育機会を提供していくことが必要です。
- 身体が不自由な方の運転方法は一般的な運転とは大きく異なるため、一人ひとりの身体の状態に合わせた安全運転教育が必要になります。また、移送サービスに従事するドライバーは、身体が不自由な方に配慮した運転方法が必要になりますが、現在、そうした教育機会はほとんどなく、移送中の交通事故が多発するなど、福祉領域の安全運転に関する課題が顕在化されています。
- そこで、今年、Hondaの関連会社であるホンダ太陽(株)と(株)レインボーモータースクール、(株)モビリティランドと共同で身体に障がいのある方や、移送サービス者向けの安全運転に関するプログラムの研究・開発に着手したところです。こうしたプログラムによる安全運転教育を通じて、Hondaは身体が不自由な方の交通社会への参加を支援していきたいと考えています。



現在、研究・開発が進められている、身体に障がいのある方や、移送サービス者向けの安全運転教育プログラム